

# 合同会議で得た先生方のご意見等を一部ご紹介します



近畿中国四国農業研究センター  
産学官連携支援室 関谷敬三氏

私たちの機関は、新しい品種の裸麦、低コストのトマトなどの品種開発を行っている。ぜひ加工に適した新しい品種の裸麦も入れていただきたい。  
作物を開発する機関として、多くの点で農業革新都市プロジェクトへ協力できると思う。



(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所屋島庁舎 グループ長 山本義久氏

近年、日本人が魚を食べなくなった。魚を食べると健康になるし、日本人の健康にも影響を与える重要な課題だと感じている。  
子どもの舌は9歳までの若い時期に決まってくるので、これを解決するためには、教育が大事だと思っている。



(独)産業技術総合研究所  
四国センター 勝村宗英氏

産業の空洞化が叫ばれる中で、ものづくりの現場では、海外に持っていかない、持っていけない技術が存在するが、西条のビジネスには重なる点がある。また、認定農業者の年齢が上がってきているとの話があったが、そこが若返ってくるビジネスモデルができないかと思う。



住友化学(株)  
代表取締役専務執行役員 高尾剛正氏

塩害対策は既に東北の方でも始まっているが、被害を受けた方との調整が難しく、実際には進みにくい状況にある。河原津の取り組みでは、東北で行う対策とは別の視点から、塩害に強い作物の調査などを進めていきたい。このまま農業の振興がなければ、日本の農業は潰れてしまうという危機感がある。



西条商工会議所  
会頭 伊藤剛吉氏

15、16年前にアメリカへ行った機会に、農業の会社を視察した。そこではコンピューターですべて管理されていた。今回のプロジェクトを成功させるためには、人的資源をしっかりと管理しながら、収益をあげていかなければならないことが大切である。



HEARTの会(人間環境活性化研究会)  
理事長(サイクス取締役) 山内尚隆氏

日本では大規模農業をやらなければならないと思っている。また、給食が一番大事だと思っている。水の西条だから、水耕栽培もしっかりと考えてほしい。  
様々な作物の栽培にチャレンジしてほしいと思っている。



東京農業大学  
名誉教授 山本 出氏

計画はよくできていると感じるが、どんな計画でも計画段階では絵に描いた餅である。  
サンライズファーム西条では牛丸さんという青年が頑張っていたが、現場の人と一緒に頑張らなければならない。



東海大学工学部原子力工学科  
理事・教授 内田裕久氏

世界でも例がない取り組みを進められている。地元の方々の努力によってMH(水素吸蔵合金)冷水製造システムのコストダウンが進んでいるが、このまま世界でトップクラスに引っ張っていければと思う。今回の会議資料は、帰って神奈川県黒岩知事に渡したい。



東海大学海洋学部  
教授 秋山信彦氏

陸上養殖の第一段階としては成功したが、低コスト化には、海面養殖と閉鎖循環ろ過のハイブリッドのシステムを考えていかなければいけない。また、その地域でどのような魚種が必要とされているかをリサーチし、魚種を増やしていくことが重要である。



愛媛大学農学部  
学部長 仁科弘重氏

愛媛大学は西条市でトマトの栽培施設を整備しているが、今後は、根を冷却することで有効な品種を探していくことが重要だと思う。また、農業革新都市の取り組みは、システムづくりに加えて技術開発の要素も入れるといいと思う。地元の大学として協力していきたい。



愛媛大学農学部  
教授 大隈 満氏

若い人が夢を持ち、親が理解してくれるような農業にしていきたい。6次産業化を進めるためには、2次産業、3次産業からのアプローチを増やさなければならない。私は「西条農業革新都市」地域協議会の会長でもあるので、総合特区を発展させていきたい。



総合地球環境学研究所  
研究推進戦略センター 教授 秋道智彌氏

私は石川県で高齢化対策に取り組んでいるが、西条出身の人がどこに住んで、どういう形で帰ってくるのか調査した方がいい。河原津干拓地の取り組みは、震災後の東北地方へ大きなインパクトを与える。しっかりとデータを出すことが、東北支援へ繋がると思う。